

出来た時の嬉しい顔、出来なかった時の悔しい顔
～習い事だから見ることの出来る子どもの顔～

日本では新学年度が始まりましたね。ここガーナは9月が新学年度の始まりとなるので三学期制の学校では今はちょうど2学期が終わったところで5月初旬までスクールバケーションとなります。今回は少しばかり姪っ子のことを話したいかと思えます。この4月から小学一年生になった姪っ子と小学三年生の姪っ子は幼稚園の頃よりいくつかの習い事をしています。ちなみに4月から小学一年生になった姪っ子は私がガーナに来てから生まれました。習い事の送り迎えは叔母にあたる私の姉がしています。先日、姉とラインで姪っ子の話になった時（大概、姪っ子のお話を切り出すのは私のほうです。）のこと、下の子ども硬筆だけれど習字教室に通い始めたと教えてくれました。月曜日から金曜日までほぼ毎日、時々振替で土曜日にも習い事です。2人がまだ小さかった頃は夏の一時帰国も習い事の数が高かったもので、絵を描いたり折り紙をしたり髪を結ったりして遊ぶことが出来たものの、去年夏の一時帰国の時はあまり遊ぶ時間が出来なくて寂しく思いました。しかし、当の二人は私と遊ぶ時間も楽しくしているのですが、習い事に行く時も嫌がらずに同じように楽しそうに家を出るのです。そのなかでも「まだいるよね。まだ帰らないよね。お仕事行かないよね。」と確認してから習い事へと向かったのです。姉の（習字教室に通い始めた）という返事に（すごいね。この夏、あんまり遊べないな・・・）と返信をすると姉は（やらせてもらえる環境ならやった方がいい）（出来ないことを悔しがったり出来た時に喜ぶ顔はいい顔だからね）と返信してきました。まさにそうなのです。私がそろばん教室をやっているのは子どもがわかるようになった時の嬉しそうな顔です。日本の習い事の場面とそろばん教室の場面に共感を覚えました。習い事を続けるのは、もちろん本人の努力が必要です。そろばん教室も同じです。また少しばかり、姪っ子のお話に戻りますが、姪二人は年がちがう為、レッスンを受ける時間がちがってきます。上の子はダンス教室に学校の宿題を持って行って空き時間に宿題をしているようです。そのダンス教室の発表会を去年たまたま時間が作れて見ることが出来ました。ステージは夏祭りの舞台です。それぞれちがうダンスを踊ったわけですが、ステージ横から姪っ子の真剣なかつ緊張している顔を見て涙が溢れてきました。学校の勉強も確かに大切であるけれど、こうした習い事が子どもたちを成長させていくのだと感じた場面でもありました。子どもが興味を持ったこと、やりたいと思ったことをやらせてあげるのもサポートするのも大人の役目だと思います。そうした中に子どもの可能性がたくさんあると思います。また、させてもらう側、つまりここで言うなら（子ども）はやらせてもらえる環境出来る環境をたいせつにして大変だろうと思うけれどがんばってほしいなと思います。今すぐに結果がでるものではなく頑張っただけのものに結果がついてくるのだから。

2017年4月13日
スプートニクガーナ 国分敏子